

二松学舎大学 ニュース IR

News IR

I R（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松学舎大学では、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2024年度 2号（NO.18）

Contents

◆ 学生の実態・満足度調査の実施について	1
◆ 二松学舎憲章	4

◆ 学生の実態・満足度調査の実施について

2024年11月20日～12月10日（延長期間：12月11日～1月17日）にかけて、「学生の実態・満足度調査」を実施しました。今年度からは設問の見直しを行い「1年次生～3年次生」と「4年次生」に分けて、大学生活全般に関する設問を1年次生から3年次生は45問（選択回答方式等）と2問（自由記述方式）、4年次生には44問（選択回答方式等）と1問（自由記述方式）をWeb形式にて回答してもらいました。

▶本調査の実施目的

①学生の本学の「学び」に対する満足度を定量的に把握すること。

②他大学と比較することで、本学の特徴を定量的かつ可視化して認識すること。

●回答率について

▼ 回答数

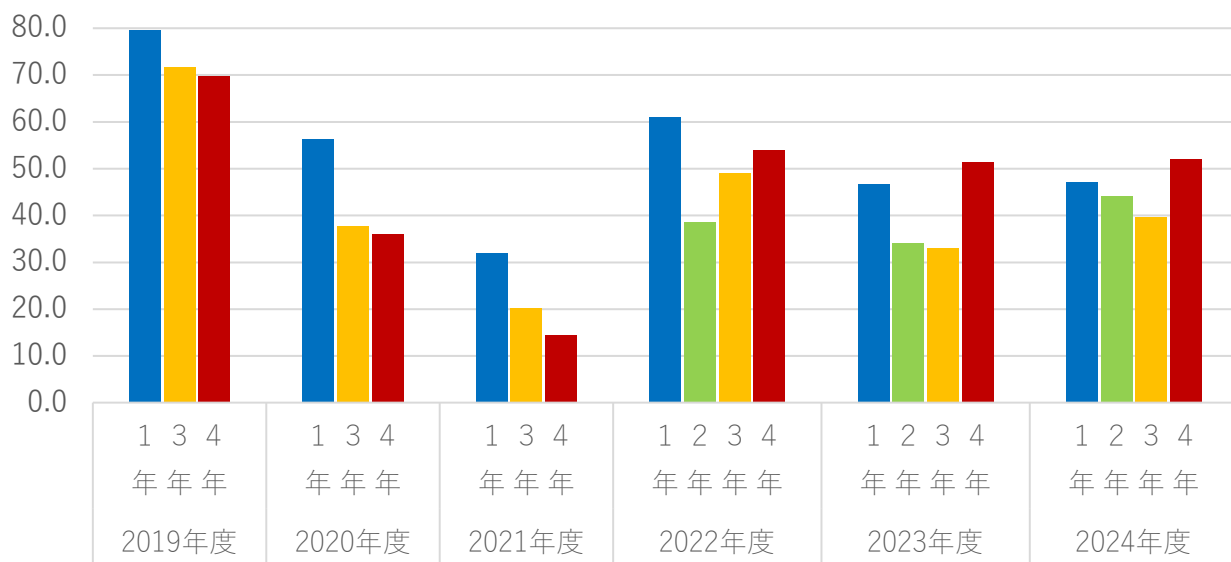
回答者数	文学部				国際政治経済学部		合計	回答率 (%)
	国文学科	中国文学科	都市文化デザイン学科	歴史文化学科	国際政治経済学科	国際経営学科		
1年	153	28	20	24	115	39	379	47.1
2年	154	29	42	52	56	21	354	44.1
3年	133	28	20	26	72	14	293	39.6
4年	175	40	17	-	110	26	368	52.1
全体	615	125	99	102	353	100	1,394	45.7

（回答率：回答数／在籍者数）

2024年度の「学生の実態・満足度調査」は、必修授業等の科目担当者の協力を得て、授業内で実施しました。回答者数は昨年度に比べ増加しており、全学年での平均は45.7%でした。科目担当者からの声かけが奏功しているようです。卒業時調査となる4年次生は、昨年度に引き続き50%以上の回答を得ることができました。

▼ 回答数の変遷（2018年度以降）

※2年次生は2022年度から実施

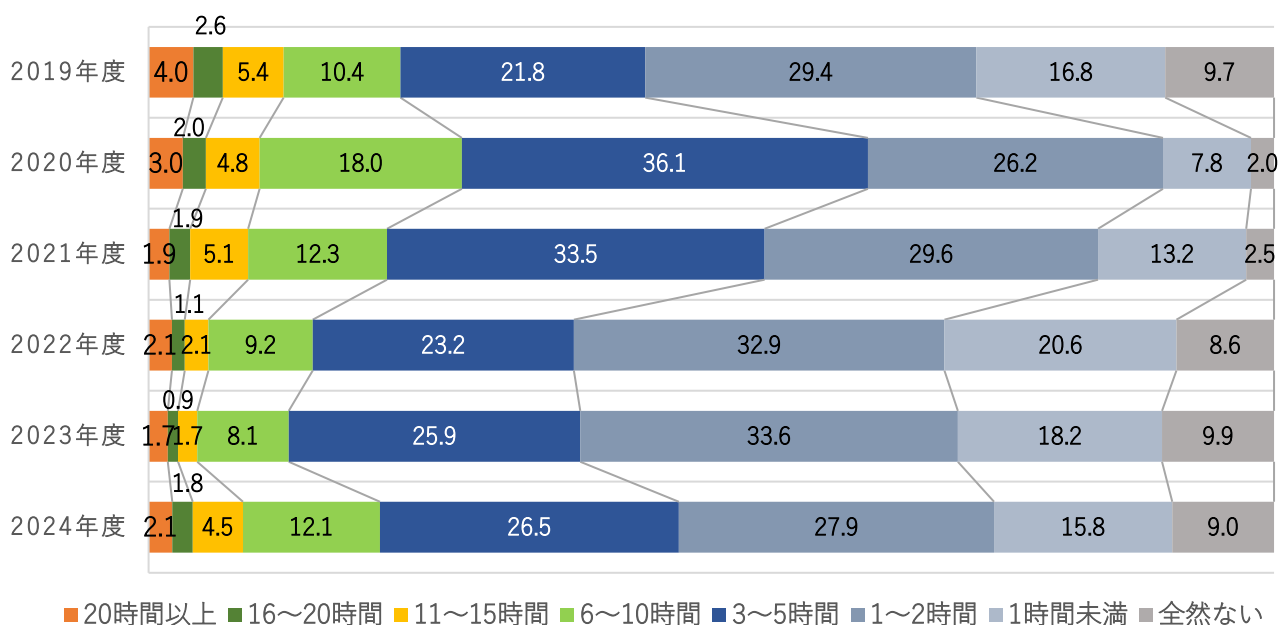


2024年度は前年度より全学年で回答率が上昇しましたが、2年次生以外は2022年度の水準には到達することはできませんでした。2020年度からはWeb形式での実施しており、2020年度・2021年度はコロナの感染拡大により対面授業がなかったことから回答率は低迷していますが、2022年度以降は対面授業が再開され授業内に時間を設け実施することができました。本調査が始まった2015年度から2019年度は回答用紙形式で実施され高い回答率であったことから、今後回答率を上げるために回答用紙形式に戻すことも検討します。

調査への回答が改善につながるという実感を持ってもらうことで、回答することが有意義であると学生に認識してもらうことも重要であると考えています。

● 学生の学修時間について

▼ 授業期間中、授業外の学修（予習・復習など）時間は1週間で平均どのくらいでしたか（2022年度からは全学年の回答の合計）

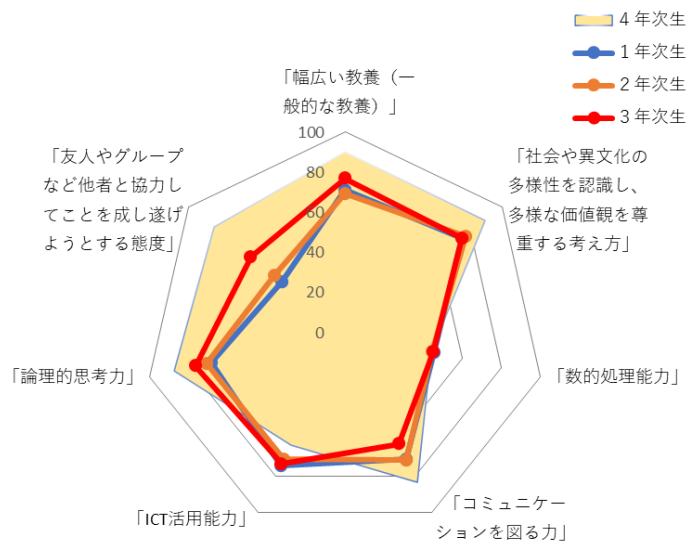


2024年度の1週間の学修時間は2023年度よりは増加傾向にあるものの、依然として単位を取得するために必要な時間数には達していないのが現状です。

大学は単位制度の実質化が求められている中で、授業はもとより、その前後で学習意欲を掻き立てるようなシラバスの作成や、課題、単位取得に必要な時間数を意識した事前事後学習を提示することなど、これまで以上に学習環境を整備していく努力が求められています。

● 2021年度入学生の学修成果の変化

▼ 入学した時点と比較して、能力や知識はどのように変化しましたかという設問の回答において「増えた」「伸びた」と回答している割合の年度ごとの経年比較を2021年度入学生に対して行った。

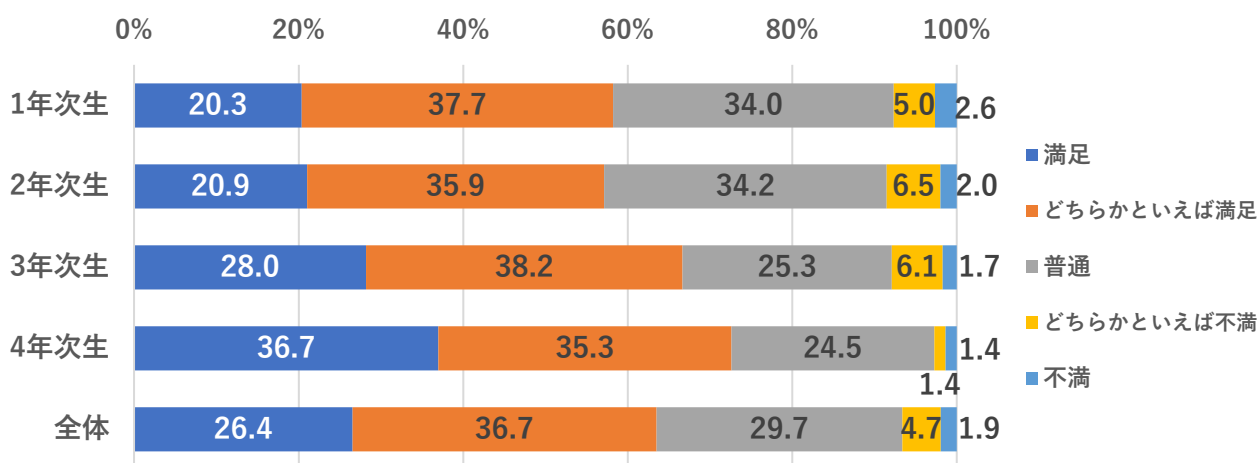


1年次、2年次では能力や知識がプラスの方向に変化したと回答している割合はほぼ一定の推移ですが、3年次生、特に4年次生ではプラスの方向に変化していると回答した割合が増加しています。

「数的処理能力」に対しては能力や知識が増加したという実感を持つ割合が増えていないため、このあたりの対応を考える必要があるかもしれません。「幅広い教養」「論理的思考」「多様な価値観を尊重する考え方」「他者と協力してことを成し遂げる態度」「コミュニケーションを図る力」においては80%以上の学生が「伸びた」「増えた」ことを4年次生には実感しています。

● 総合的に見てこれまでの大学生活全般の満足度はどうですか

▼ 「総合的に見てこれまでの大学生活全般の満足度はどうですか」と問う質問に対して、各学年ごとの割合（％）を示します。



「満足」「どちらかといえば満足」と回答した学生の割合は全体で63.1%、4年次生では72.0%となっています。今回の結果に限って言えば2年次生以下の学年の満足度が低くなっているため、次年度以降その理由を問うような設問を設けることも検討する必要があるかも知れません。一方、「どちらかといえば不満」「不満」と回答した学生の割合が全体で7%を下回っており、4年次生では3%以下となっています。また、学年が上がるほど、「満足」と答えた割合が高くなる傾向にあります。

- 大学の施設・設備やカリキュラムについて改善してほしいところを尋ね、自由記述で回答してもらいました。主な回答内容は以下の通りです。

- 1号館1階の正面玄関を開放してほしい。
- 校舎が離れていて、校舎間の移動に時間がかかる。
- エレベーターが混雑してるので増設してほしい。隔階どまりの運用が不便。
- エレベーターの扉の閉まるスピードが速くて挟まれることがある。
- 学食の券売機で、新紙幣・新硬貨を使えるようにしてほしい。電子決済に対応してほしい。
- 学食の価格をもう少し下げてほしい。メニューを増やしてほしい。
- 学食の営業時間が短くて混雑している。朝や夕方に利用したいときにできない。
- トイレのハンドソープが切れていて使えないことが多く、薄すぎて泡立たない。
- フリースペース、自習室等の校舎での居場所が足りない。
- ロッカーを設置してほしい。
- 職員の対応を改善してほしい。
- 履修科目の定員数・抽選制度の見直しをしてほしい。
- 専門の開講科目をもっと増やして。
- 必修科目の授業時間帯を受けやすい時間にして。
- 教室の温度設定に気を配ってほしい。
- 教室の座席が狭い。
- 椅子の座り心地が悪く、椅子が壊れていることがある。

都心部立地のメリットがある一方で、敷地の制約から校舎の高層化や分散による教室間の移動に不便さを感じているという意見が多くみられました。校舎内の居場所に関する要望もありました。カリキュラムに対しては履修に関する要望が目立ちました。設備・備品に対する意見で早急に対応が可能なものは関係部署と共有し改善に着手しました。

なお、回答内容のうち以下のようなものについては、カリキュラムや単位制度への理解が十分でないと考えられることから、学生の理解を高める発信対策を検討します。

- 年間の履修の上限単位数を増やしてください。
- 卒業単位に教職課程も含めてほしい。

【二松学舎憲章】

<建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」の発揚に努めます。

<教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

<学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

<社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松学舎大学

大学改革推進部 I R推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp